

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部
	課名	商工振興課
	係名	商工振興係
	記入者	
	電話(内線)	218

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		いばらき伝統的工芸品産業イノベーション推進事業(地方創生)				(3) 事業の 優先度		A			
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体		市						
① 事業の区分		主要事業							(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)				
② 施策コード		34101		(総合計画掲載ページ)		106		ページ)		会計区分	一般会計				
基本目標(政策)		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)					財源区分			国庫補助					
基本施策		3-4地域資源を活用してにぎわいと交流を促進する観光の振興(観光)					予算科目			款 7		項 1		目 3	
施策		①地域資源を活用した観光の振興					予算書上の			商工業振興費					
施策内容		1地域資源を活用した観光の振興					事業名称			(予算書		ページに掲載)			
(5) 事業期間		開始		平成		28		年		月から		(8) 事務分類		自治事務	
		終了				年		月まで(		力年)		根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
茨城県伝統的工芸品産地交流促進協議会に対して負担金として拠出する。	2019年の茨城国体、2020年に開催される東京オリンピックを見据え、地域や産業を取り巻く多様な主体の参画・連携・協働を得ながら、地域資源となる伝統的工芸品の結城紬のブランド向上や市場拡大に取り組み、産地の稼ぐ力を高め、伝統的工芸品産業の振興と地域経済の活性化を図る。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
①現状分析・市場調査・・・地場産地・地場産品の現状を実証的取組などを交えながら把握及び分析を行う。 ②地域商社の検討・・・観光事業者などの異業種企業やデザイナー・バイヤーなどのプロフェッショナル人材などの外部人材の参画を得ながら、産地間連携・官民協働による地域の商社機能を有する地場産業経営の共通プラットフォームを構築する。 ③共同試行事業・・・市場開拓・新商品開発・人材育成に至る一貫した活動を積極的に展開する。	茨城県の伝統的工芸品である結城紬(結城市)、笠間焼(笠間市)、真壁石灯笼(桜川市)の組合と関連自治体(県・3市)を構成した「茨城県伝統的工芸品産地交流促進協議会」を母体に、将来的に組織の自立化を図る。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
2019年の茨城国体、2020年の東京オリンピックに向け、産地の稼ぐ力を高める。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映						
実施計画												
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）						
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度		
(1) 事務事業費の コスト	事業費	負担金補助及び交付金										
	合計											
	財源	国庫支出金 (千円)										
県支出金 (千円)												
地方債 (千円)												
その他特定財源 (千円)												
一般財源 (千円)												
合計 (千円)												
補助・起債制度名												

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	新たな顧客開拓活動件数	目標値	件		3	3	3	3
		実績(見込)値		0	3	3	3	3
		達成率		0.0 %	100.0 %			
	新商品開発支援件数	目標値	件		2	2	2	2
		実績(見込)値		0	2	2	2	2
		達成率		0.0 %	100.0 %			
5. 事業評価								
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	茨城県の伝統的工芸品の1つとして結城紬の振興が図られる。				
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない	市が関わる部分と組合の役割分担を決め、実施していかなければならない。				
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	市が関わる部分と組合の役割分担を決め、実施していかなければならない。				
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	偏りがないように調整する必要がある。				
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	地域資源を活用した観光客の誘客も併せて図る必要がある。				
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	組合だけでなく、官民の連携・協働を行うことで、伝統工芸品のブランド力向上を図る。				
進捗度	事業の進捗	A	順調である	現状をしっかりと把握し、積極的に展開していく。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
伝統的工芸品である結城紬は、消費者の嗜好・ライフスタイルの変化等による需要減少、後継者不足の問題を抱えており、産地の危機感が高まっているものの、現状と要因を正確に分析できていないのが現状である。また、組合単独での新たな市場開拓、商品開発力の向上に取り組んでいるが、ノウハウや人材・資金不足により中長期的に戦略することは難しいと思われるため、県・3市と組合が一体となり、産地の稼ぐ力を高め、結城紬の振興と地域経済の活性化を図る必要がある。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
組合だけではノウハウや資金不足により、ストーリーやビジョンが乏しいため、県・3市と組合が一体となり、ビジネスモデルを構築していかなければならない。そのために、事業を展開することで、産地自身が持続的に稼ぎ自立していくために必要不可欠となるノウハウの獲得と活動初期における経営資源のサポートする。将来的には、自立・自走できるビジネスモデルを構築していく。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		28年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		結城紬・笠間焼・真壁石灯籠の組合と茨城県・結城市・笠間市・桜川市で構成する「茨城県伝統的工芸品産地交流促進協議会」を母体に、地域資源となる伝統的工芸品の市場拡大・産地の稼ぐ力をつけることにより、振興と地域経済の活性化を図る。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				